小体育部会

教材の本質をふまえた体育指導のあり方

山梨支会「すべての子どもたちに楽しさを味わわせるボール運動」（３年次）
～バスケットボール型ゲーム・バスケットボールを通して～
甲州支会「ボール運動の効果的指導法」（３年次）
～バスケットボール型ゲーム・バスケットボールを通して～

Ⅰ　研究の内容

１　研究の具体的内容

山梨支会

（１）すべての子どもが主体的に学習に取り組める学習過程の工夫
（２）一人一人の技術の向上にかかわる学習活動の場や教具・用具の工夫
（３）ボール運動における評価のあり方（自己評価や相互評価など）
（４）指導技術を上げるための理論研究や実技研修

甲州支会

（１）理論研究や実技研修，授業研究等を通して，子どもたちの実態に合い，どの子も主体的に取り組むことができる学習内容や学習過程を工夫する。
（２）中学年におけるバスケットボール型ゲームについての内容や方法，それにかかわる教材，教具，用具，場の設定等を工夫する。
（３）ボールゲーム，ボール運動においての，子どもたちの技能の向上を目指す上での，ドリル練習やドリルゲーム等の発掘や充実を図る。
（４）中学年におけるボールゲーム，ボール運動の支援と評価のあり方について，その内容や方法等を探り，研究を深める。

２　理論研究，実技研修（山梨支会，甲州支会合同）

・県教育委員会スポーツ健康課　加賀美　猛指導主事による理論・実技研修

３　授業研究

山梨支会

３年「セストボール」　　授業者　小川　壮太教諭　日下部小

甲州支会

３年「シュートボール」　　授業者　藤波　　貴教諭　塩山南小

Ⅱ　成果と課題

1　成果

・これまで２年間の高学年での実践の成果と課題を踏まえながら，今年度，中学年での実践に取り組んだことで，指導の系統性や技能段階のつながりなどについて，研究の深まりと積み重ねが見られた。

・セストボール，シュートボールといった，これまであまり扱わなかったボールゲームについて授業実践を通して研究でき，教材の取り上げ方や学習の場，指導法などについての考え方が広がり，今後の実践につなげる土台ができた。

・子どもたちが運動を楽しみ，生き生きと活動する様子が見られた。

・学習過程や学習内容の工夫により，子どもたちが楽しく技能を向上させながら，意欲的にめあて達成に向けて活動することができた。

・中学年向けの学習資料等を充実させることができ，子どもたちが学習のポイントを押さえ，練習や作戦等を工夫しながら授業にのぞむことができた。

・ドリルゲームの有効性が中学年でも明らかになった。

・学習の場や学習カードの工夫等が多く出され，今後の実践の参考となった。

2　課題

・子どもたちの能力や興味関心に応じた授業をするには，授業者がしっかりとした理論と多様な学習方法を研究する必要がある。

・高学年に向けて，中学年で身に付けておきたい能力や技能について，さらに具体的になるように研究を深めていきたい。

・バスケットボール型への移行を考えたとき，チェストパス，プッシュパスなどの技能を習得させていくことが大切である。

・「キャッチする」「スローする」といった，基礎・基本といえる技能の習得の大切さを改めて感じさせられた。

・子どもたちが自己評価，相互評価により自己の変容が見えるような学習カードの工夫や評価の仕方について，さらに研究を深めたい。

Ⅲ　研究のまとめ

今年度は，中学年における教材の発掘や指導の系統性に目を向けながら，すべての子どもたちが教材の本質に触れ，その楽しさを味わいながら，確かな技能を習得していくための指導法について研究してきました。少人数でのチーム編成，効果的な学習資料や作戦カード，場の工夫，ドリルゲームなど，その成果物は多く，実践に生かすことができました。今後も今年度の成果と課題をベースに，中学年のボールゲームにおける学習過程や学習内容が，より子どもたちの活動に寄り添うものとなるよう，さらに研究を深めていくことが求められます。また，体育部会のみの実践で終わることなく，学校全体の体育活動へとその成果を広げ，実践していくことが大切だと思います。

（部長　堀井　勝彦）